

令和4年度東京都立農業高等学校 全日制課程 学校経営報告

1 教育活動の目標と自己評価

(1) 進路指導

【取組】

- ア 進路通信「進路Go!」を年間8号発行し、生徒の進路に対する意識を高めた。
- イ 「進路の手引き」(本校作成)をもとに、個別指導を徹底した。
- ウ 学年や専科との情報共有を図り、「専科との生徒進路希望情報交換会」、「1年4月ガイダンス・12月ガイダンス・3月働く先輩懇談会」、「2年4月ガイダンス・6月企業採用担当者による進路ガイダンス」を実施した。

【結果】

- ア 168名の卒業生のうち、大学・短期大学への進学が48名、専門学校への進学が65名、就職が43名(うち公務員2名)、その他が12名であった。昨年度より大学・短大進学者が8名増加した。
- イ 進学のうち主な大学の内訳は、東京農業大学7名、麻布大学3名、日本獣医生命科学大学2名、酪農学園大学1名、杉野服飾大学3名、文化学園大学5名、東京医療保健大学2名であり、卒業後、専門性をさらに高めようとする生徒が増えている。公立大学である秋田県立大学、宮城大学に各1名合格を果たした。また、難関私大である慶應大学に1名合格をした。
- ウ 就職は、第一回目の採用試験において、35名中34名が内定した。また、国家公務員に1名合格をした。

エ 進路状況の推移

年度	大学	短大	専門高校	就職・公務員	その他	卒業生数
R4	40名(24%)	8名(5%)	65名(39%)	43名(26%)2名	12名(7%)	168名(100%)
R3	38名(23%)	2名(1%)	75名(45%)	40名(24%)0名	12名(7%)	167名(100%)
R2	27名(16%)	6名(4%)	78名(46%)	43名(27%)2名	13名(8%)	170名(100%)
R1	30名(18%)	3名(2%)	83名(48%)	48名(28%)2名	7名(4%)	171名(100%)
H30	27名(17%)	2名(1%)	67名(41%)	45名(32%)3名	14名(9%)	161名(100%)

(2) 学習指導

【取組】

- ア 「学力スタンダード」については、各教科で生徒一人一人の学力を把握し、基礎学力の向上に努めた。
- イ 「技能スタンダード」の取組として、資格・検定の取得のための指導を行った。
- ウ 西部学校経営支援センター特別指定校の指定を受け、「教科間連携及び、地域連携の強化による学びの充実」を図る取組を行った。教科間連携に関する授業は19テーマ、地域連携に関する授業は、12テーマで実施した。
- エ 言語能力向上と教科間連携の取組として、各科の代表者による合同課題研究発表会を初めて実施した。
- オ 農業科において、高大連携事業、GAP教育、HACCP教育を推進した。

【結果】

- ア 生徒による授業評価アンケートでは、普通科目の取組についてはR4:88%(R3:88%、R2:87%)、授業(実習)への取組についてはR4:94%(R3:96%、R2:95%)で、生徒は真剣に取り組んでいると回答している。
- イ 日本農業技術検定2級にR4:13名(R3:12名R2:2名)、3級66名に(R3:126名、R2:81名)が合格、アグリマイスター顕彰制度ゴールドにR4:4(R3:1名)シルバーに11名(R2:5名)が認証された。
- ウ JETの活用により英語によるコミュニケーションを図る機会が増大した。
- エ 茶、ナシでJGAP維持のための審査を行った。
- オ 農業三科は、東京農工大学との高大の取組として、大学教授、大学院生からの授業、大学農場で

の実習を年間を通して実施した。

(3)生活指導

【取組】

ア 頭髪、身だしなみ等の生活検査の指導を、定期考査時に年間2回行った。

イ 7月に交通安全教室、3月にセーフティ教室を実施した。

【結果】

ア 頭髪、身だしなみ等の指導については、組織的な対応を行うことにより、生徒の規範意識を向上させた。

イ 登下校における自転車事故はなかった。

(4)特別活動・部活動

【取組】

ア 体育祭・農高祭は、3年振りに全学年で実施した。農高祭は、全定合同開催で、保護者、中学生のみの限定公開で実施した。

イ 部活動では、野球部、バスケットボール部、バレーボール部、陸上同好会等が公式戦に出場した。

【結果】

ア 体育祭は、3年振りの全学年開催で、生徒は実行委員会を中心に前向きに取り組み、充実感を得た。

イ 農高祭は、2日間で延べ1,300名が来場し、日頃の学習成果を発揮する機会を得た。

(5)健康づくり

【取組・結果】

ア 生命にかかわる病気、怪我、事件等はなかった。

イ 特別支援委員会を15回実施した。

(6)募集・広報活動、地域交流等

【取組・結果】

ア 授業公開・学校説明会を、参加人数を制限して8月と12月に行った。また、体験入学を、参加人数を制限して10月に行った。授業公開・学校説明会には中学生・保護者676名、体験入学には中学生・保護者142名の参加があった。

イ ケヤキ並木を毎月発行した。ホームページの更新を95回、ツイッターは、154回ツイートを行った。

ウ 食物科は、中学生親子料理教室と中学校家庭科教員向けの技術研修会を実施した。

オ 東京農工大学、府中市との連携を図ることにより、地域とともに歩む学校基盤を構築した。

(7)学校経営・組織体制

【取組】

ア 予算執行については、経営企画室と連携を図りながら、各教科・分掌の予算進行管理を行った。

イ 施設は築50年近くを経過しているため、老朽化が進んでおり、安全安心面での不安がある。

ウ 全教育活動から体罰等の根絶、いじめ防止に向けた取組を行った。

エ 月当たりの超過在勤時間が45時間を超える教職員を0（ゼロ）にすることを目標にするなど、ライフ・ワーク・バランスの実現に向けた取組を推進した。

オ 令和3年度から教育課程推進部を設置し、今年度より西部学校経営支援センター特別指定校の取組を推進した。

【結果】

ア 執行率は100%、センター執行率は43%（R1：43%、R2：42% R3：48%）である。

イ 体罰防止月間等を活用して全教育活動から体罰等を根絶するための取組を行った。今年度も体罰

はゼロである。

ウ いじめを防止するために、教員の指導力向上とスクールカウンセラーの活用等に努めた。

エ 年間で、超過在校時間が45時間を超える教員は1名であった。

オ 西部学校経営支援センター指定校の取組の中で、スクールマスコット『まゆ丸、通称：まゆちゃん』を作り、今後、校内生産物の商品ラベル等に活用する。

2 今年度の重点目標と数値

(1) 生徒の進路希望実現 進路希望実現率90%以上

(実績 H30：91%、R1：96%、R2：92% R3：93%)

進路決定率は93%である。

(2) 学校満足度の向上 生徒の学校満足度90%・保護者の学校満足度90%

(生徒 H30：90%、R1：91%、R2：95%、R3：92%)

(保護者 H30：96%、R1：97%、R2：94%、R3：90%)

生徒の学校満足度は86%、保護者の学校満足度は97%である。

(3) 組織的な生活指導体制 身だしなみ違反生徒ゼロ、自転車事故ゼロ

(H30 実績 身だしなみ違反生徒のべ90名、自転車事故0名)

(R1 実績 身だしなみ違反生徒のべ173名、自転車事故0名)

(R2 実績 身だしなみ違反生徒のべ10名、自転車事故0名)

(R3 実績 身だしなみ違反生徒のべ10名、自転車事故0名)

定期考査中に身だしなみ(頭髪)指導をした。14名の生徒が不十分であったが、生活指導部を中心に指導を継続した。自転車事故についてはゼロである。

(4) 広報・募集活動の推進 全学科の入選応募倍率：推薦3.5倍、一次1.3倍

(H30 農業科実績：推薦2.37倍・一次1.35倍、家庭科実績：推薦4.40倍・一次1.74倍)

(R1 農業科実績：推薦2.30倍・一次1.24倍、家庭科実績：推薦3.15倍・一次1.40倍)

(R2 農業科実績：推薦1.90倍・一次0.93倍、家庭科実績：推薦2.95倍・一次1.16倍)

(R3 農業科実績：推薦2.19倍・一次1.09倍、家庭科実績：推薦2.70倍・一次1.22倍)

ア 推薦に基づく選抜 農業科は2.14倍、家庭科は3.05倍である。

イ 学力検査に基づく選抜 農業科は1.13倍、家庭科は1.24倍である。

なお、中進対の倍率は、農業科は1.36倍、家庭科は1.07倍である。

(5) 地域との連携事業の充実 地域連携事業実施回数25回

(実績 H28：30回、H29：30回、H30：30回、R1：30回、R2：20回 R3：20回)

今年度も令和3年度と同様に新型コロナウイルス感染症拡大防止に努めながら、地域との連携事業を実施した。

ア 都市園芸科：

・府中市環境対策事業(4月～5月) 府中市PFSと連携して、市内の幼稚園、小学校、中学校へゴーヤ苗の配布(700株)、近隣小学校2校とゴーヤカーテンの苗の植栽。

・府中市郷土の森観光物産館『郷土の森 夏のフェスタ』、府中市『キテキ府中テマルシェ』に参加

イ 緑地計画科

・府中市との「国天然記念物馬場大門のケヤキ並木保護更新プロジェクト」の協定もと府中市立第一小学校、府中市立府中第一中学校の児童・生徒と本校生徒がケヤキの種子拾い、種まきを行った。

・令和5年2月、小金井市と「名勝小金井サクラ復活」に関する連携協定を締結し、植樹を行う。また、保存のためにサクラの苗木の養成、接ぎ木技術の方法を学んだ。

・日本土壌学会、日本森林学会にケヤキプロジェクトの活動を発表した。

ウ 食品科学科

- ・シェーキーズと連携、廃棄生地を活用した商品開発に取り組んだ。
- ・山手調理製菓牛乳スマイルプロジェクトに参加し、牛乳の消費促進のための商品開発に取り組んだ。

エ 服飾科

- ・府中市『キテキ府中テマルシェ』に参加協力し、ファッションショーを実施した。
- ・シェーキーズと連携と連携し、フタッフユニフォームの提案を行った。
- ・高校生ファッション甲子園に本選に出場をした。

オ 食物科

- ・各種コンテストに参加し、高校生食育王選手権大会で準食育王、江戸東京野菜料理コンテストで最優秀賞、高校生レシピコンテスト西洋料理部門（村川学園主催）で金賞、食糧学院高校生レシピコンテストで技能賞に入賞した。

3 今後の課題と対応策

(1)進路指導

進路指導部と学年との連絡を密にするとともに、外部教材を活用したテストの結果等の共有化を図る。また、事務上のミスが起こらないよう手順を明確にして、複数人でのチェックを確実に実施する。大学・短期大学への進学者数が増加しているため、進学者希望者に対して指導を組織的に実施する。

(2)学習指導

- ア 生徒が農業高校で身に付けるべき学力の共有化を図り、「都立高校学力スタンダード」に基づき、具体的な学習目標を明示し、校内で組織的・効果的な指導を行う。
- イ 生徒の実態に応じた適切な宿題・課題等を課すとともに、令和4年度から導入した外部教材の有効活用を組織的に実施する。
- ウ 学力や進路希望に応じた資格取得等を促進する。

(3)生活指導

- ア 身だしなみ、挨拶の励行、時間を守る、言葉遣いの指導を繰り返し行う。
- イ 落ち着いた学習環境の確立やルールやマナーの遵守等、規範意識の醸成につなげる指導を行う。
- ウ 薬物乱用防止、スマートフォン・携帯電話に係る犯罪防止等、生徒の健全育成に向けたセーフティ教室を実施し、犯罪に巻き込まれない指導を繰り返し行う。
- エ 生活指導方針について、教職員の共通理解を深め、授業、学校行事等のあらゆる場面で統一的な指導を行う。
- オ 部活動の加入率と定着率を上げ、自己実現の場としての部活動を一層魅力あるものにする。

(4)特別活動

特別活動では、ホームルーム活動の大切さを全教職員が共有し、生徒が主体的に考え、互いに話し合い協力し合う絶好の場となるよう、指導計画・指導方法をより工夫していく。

(5)防災教育

生徒が地震や火災等の災害から自らの命を守る方法を身に付け、状況に応じた的確な判断や行動ができるよう防災教育を引き続き推進し、災害等に備えた学校の防災危機管理体制を充実させる。

(6)募集・広報活動

- ア ホームページを適宜更新することにより、教育活動を発信していく。
- イ 学校見学会や学校説明会、体験入学等の実施内容等を充実させる。
- ウ 専門学科の強みを生かした諸活動を関係機関等と連携しながら推進する。
- オ 教員による中学校訪問や塾訪問を導入する。

(7)健康づくり

- ア 生徒が快適な条件の下で学習できるように環境整備に努める。
- イ 生徒の体力向上に向けた取組を推進する。
- ウ 教育相談体制を充実させるために、スクールカウンセラーを有効に活用する。また、特別支援教

育コーディネーターを中心に、支援を必要とする生徒に対する具体的な対応策を講じる。

(8) 学校経営・組織体制

- ア 経営企画室の学校経営参画を推進し、教育職員との連携、協力体制をさらに深める。
- イ 教育効果を一層高めるために、各分掌間の連携を強固にする